

GOKURAKUJI DAYORI
極楽寺だより
2024(令和6)年 11月号



発行所：極楽寺（浄土真宗本願寺派）☎ 759-3803 山口県長門市三隅下野波瀬 3633 ☎ 0837-43-0625

秋の永代経法要の
ご案内

十一月六日（水）

昼一時半

夜七時半

十一月七日（木）

昼一時半

講師 渋木 浄土寺住職

荻 隆宣 師

えいたい きょうほう よう
永代経法要とは



住職が子どもの頃は、山を走り回って遊んでいました。しかし、今は大人でもなかなか入ることができません。なぜなら、山に入る人がいなくなったことで、道がなくなってしまうからです。先に行く人が踏みしめる歩みによって、道はできるのです。私たちのところまで、お念仏の教えが伝わってきたのも、先だつてこの道を歩まれたご先祖があるから、志を納めお寺を護つてこられた先輩方があるからなのです。そして次に歩む者がなければ、道は途絶えてしまいます。永代経法要とは、永代にわたり伝えられたこのみ教えを感謝と共にいただき、永代にわたり伝えていこうという尊い営みなのです。

お取越しの季節です

お寺にご連絡下さい。日程を調整した上で、お参りにうかがいます。



お取越しをお勤めしましょう
キャンペーン

弱くていい助けを求めていい

「お取越し」とは、真宗寺院において最も大切な行事である親鸞聖人のご法事「報恩講」を、ご命日よりお取越し（早めて）各家々で勤めるといふ、真宗門徒にとって大切な伝統行事です。「でも、どうしても親戚でもない人の法事を勤めなくてはならないの？」と思われる方もありません。実はこの行事には、大切な心が込められているのです。

自分のイメージとは逆だった

長年、学校関係の役員をしていることで、多く

の先生との出会いと学びをいただいています。中で

も、ある小学校の校長先生の「学校に、強い口調でクレームを言う保護者がおられます。それは不安だからです。不安を隠そうと攻撃的になるのです。だからしっかり話を聞いて、安心させてあげなくてはいい

けません」という言葉が、強く心に残っています。不安なら素直に助けを求めればいいのに、不安だからこそ攻撃的になると校長先生は指

摘される。なぜなのか。この問いは、とても大切なことを私に教えて

くれました。

お取越し、お取越し、お取越し、お取越し、お取越し、お取越し、お取越し、お取越し、お取越し、お取越し

考えてみれば、ここ数十年「人に迷惑をかけるな」「自己責任だ」という言葉が、かつてないほどの大きな力で、私たちの社会を抑圧しています。長引く不況や、新自由主義の影響も大きいのでしょうか。「迷惑をかけてはいけな

い」と委縮する人も増えました。私もこの言葉に圧力を感じる一人です。「迷惑をかける私は、生きていいのか」と考える人さえいます。強

くなれ！自立しろ！それが、生きる資格であるかのように。だから弱

みは見せられないし、助けも求めない。不安を隠そうと強がることで、攻撃的な態度をとってしまう。なるほど、そう考えれば腑に落ちます。

その思いは、後に保護司の研修でダルク（薬物依存症からの回復をサポートする施設）を訪問したことで、確かなものになりました。



ダルクは、薬物依存者同士が自らの経験を語り合う中で、助け合い、支え合いながら更生していく場として設立されました。だからスタッフも薬物経験者です。共に支え合いながら、人間回復を目指すのです。

ところで、人間回復と聞くと「薬物の誘惑に負けない強い人間になる」というイメージを持ちませんか？私はそう思いながら見学していました。でも逆だったのです。ダルクの目指す人間回復とは「自分の弱さを認めること」、そして「私は助けてもらっていいと気づくこと」でした。

薬物の快感は脳に直接影響するので、理性ではコントロールできません。だから弱さを自覚し、薬物から距離をとるしかないので。事実、スタッフの人たちも「私たちは今でも依存者です。目の前にあれば必ず手を出します。

だから励まし合いながら、遠ざかるようにしているのです」と言われていました。



また薬物に依存する人は、家庭環境に問題のあることが多く、疎外感と孤独感を抱えているそうです。それは周りが信頼できず、敵に見えるということでもあります。だから弱さを見せられない。しかし人間である限り、いつも強くはられないから不安がつきまとう。それを解消するために、薬物に手を出してしまう。薬物が生み出す全能

感（何でもできるという感覚）を求めて。強さを欲することで不安になり、不安であるがゆえに強さを渴望する。まさに校長先生の指摘に通じます。

でも人間って、本来弱さや愚かさを持っているものでしょう。「あの人にも悩みがあるんですね。人間っぽい一面を知って、身近に感じるようになりました」といった言葉を、時折耳にします。悩みや欠点を持つからこそ「人間くささ」があり、それを認め合うところに「人間味」が感じられるのです。

この事実を見失い、強さを生きる資格のように思い込むと、歪みは必ず生まれます。そもそも「自己責任」と言い出してから、皆が責任感を持つ社会になりましたか？責任をとらされたくないから、最初からやらない。失敗は隠ぺいするか、誰かのせいにする。そんな無責任で歪んだ状況が広がっているようにしか、私には見えないのですが。

そして不安はますます強まり、せめて自分より下を見つけて安堵したいと、マウントがとれる相手や誹謗中傷でできる人を探す。そんな様相さえ目にします。弱い者が弱い者をたたき、更に弱い者をたたき。自分が弱い立場になった時のことを思うと、また不安は加速していく。この連鎖から自力で抜け出すことは、困難です。どんなに強くなる

うと、自分より下を見つければよいとも、落ちる恐怖はつきまとうのですから。

だからこそダルクは、本当の安心感を求めて「弱さを認める」「助けを求めていいと気づく」という取り組みをしているのでしよう。「落ちたくない」と不安を抱えた生き方から、「落ちても大丈夫」と言える場を作る。「生きることに、そもそも資格が必要なのか」と、これまでの考えを問い直す。そんな、人間の事実を回復する取り組みを。

しかしこれもまた、道のりは困難です。自分の愚かさや向き合おうのは、やはりつらい。目を逸らす方が楽ですよ。疑うのは簡単ですが、信頼するには勇気が必要になります。

ただ、同じ苦悩を抱えた人たちが側において、励まし合い、いたわり合いながら共に歩めたら、それはとても大きな力になるはずです。



温もりと手触りのある生き方を

ダルクの取り組みは、私にとって衝撃的なものでした。でもよ

くよく考えれば、どこか親しみを感じるものでもありました。なぜならそれは、親鸞聖人の歩みと重なるからです。



親鸞聖人は、弱さや愚かさを「強さで克服する道（自力）」から、「受け入れ、素直に助けを求める道（他力）」へと歩みを転じられた方でした。人間の事実、凡夫（ただひと）に立ち返り、阿弥陀さまへの信順を通して、新たな生き方へと踏み出されたのです。

「どんなあなたでも摂め取って捨てない」という阿弥陀様の本願と出会うことで、大地に受け止められるような安心感が与えられる。弱くても愚かでも切り捨てられないから、自分の姿と向き合える。「それでも大丈夫」という声に励まされ、また立ち上がることができる。そんな親鸞聖人の歩みを通して、気づかされるのです。私たちは阿弥陀様から「弱くていい、助けを求めてもいい」と呼びかけられていることに。そして、その呼び声である南無阿弥陀仏のお念仏は、すでに届けられていたのです。

この呼び声を振り所として生きるからこそ、周りの人に助けを求め
る勇気も生まれてくる。不安の連鎖から、ともに凡夫としていたわり
合う連鎖へと踏み出すこともできるのでしよう。

ならば、お念仏をいただく私たちだからこそ、この社会に発信でき
ることがあるのではないのでしょうか。人間の弱さ、愚かさに向き合わ
れた親鸞聖人の歩みの確かさを。安心して「助けて」といえる世界と
出遇うことの尊さを。不安を抱えた凡夫が、それでも「生きていいんだ
と実感できる人生の豊かさを。そこに
人間であることが回復され、温もりと
手触りのある生き方が開かれていくこ
とを。 ■



今回の文章は、西本願寺の冊子『大乘』に寄稿し
たものを転載致しました。

お経本をいただく

お経本を開く前と、閉じた後には、「いただく」という作法を
します。また、お経本は、足の裏が着くところには置かないよ
う、丁寧に扱います。これらは、お経を大切にすることから行う作法です。

では、なぜお経を大切にしなければいけないのでしょうか。それは、お経には大切な教え
が書かれているからです。その教えには、阿弥陀さまをはじめとし
た多くの仏さまが、「私」のために願い、はたらいてくださっている
ことが示されています。つまり、お経本を大切にするのは、「私
を本当に大切にする教え」が書かれているからであり、「私を本当
に大切にしてくださる願い」が書かれているからです。「お経本を
いただく」とは、この私を大切にすることから行う行為であり、私を大切に願っ
てくださる方々への報謝のための作法でもあるのです。 ■



本堂にクーラーを設置しました

本当に、暑い夏でした。

「地球温暖化どころか地球沸騰化だ!」と言われた方がありましたが、まさにその通り。今まで経験したことがないような暑い夏でした。9月に入って気候が変わっても、厳しい日差しと蒸し暑さはなかなか収まりませんでした。

このような状況を鑑み、本堂にクーラーを設置しました。総代会から、門徒会特別会計より110万円の助成をご提案いただき、世話人会の了承を受けて、支出致しました。

また、前坊守より100万円の特別懇志があり、残りは極楽寺より支出して対応しましたことを、ご報告させていただきます。

少しでも快適にご聴聞いただけるよう取り組んでいきます。どうぞ、お寺へ足をお運びください。

支出	クーラー設置費用	1,950,000 円
	消費税	195,000 円
合 計		2,145,000 円
収入	門徒会特別会計より	1,100,000 円
	前坊守特別懇志	1,000,000 円
	極楽寺より	45,000 円
合 計		2,145,000 円



納骨堂のろうそくが、厳しい日差して、こんなことになってしまいました。

しんらんしょうにんさんごうかいほうえ 三隅親鸞聖人鑽仰会法会 (9/14・15) 無事勤めることができました!



三隅地区八ヶ寺の持ち回りで開催しております「三隅親鸞聖人鑽仰会法会」が、東京から本多静芳先生をお招きし、9月14・15日極楽寺引き受けで勤まりました。総代・世話人・仏婦幹部の方々のお手伝い、またお参りくださった皆さまのおかげで、無事勤めることができました。本当に、有難うございました!しかし、本当に暑かった…。



月々の言葉

Monthly Words



過ぎたるは
及ばざるより
なお悪し

極楽寺揚示伝



10月の言葉

過ぎたる時代に

「過ぎたるは、猶及ばざるが如し」とは、



古代中国の思想家・孔子の『論語』に由来した言葉です。ある時、

二人の門人のどちらが優れているかをたずねられた孔子は、「彼

は行き過ぎていて、彼は及ばず足りない」と答えました。「それ

ならば、行き過ぎている方が優れているのか」と再度たずねら

れると、「行き過ぎるのは、足りないことと同じだ」と答えたの

です。「中庸」の大切さを述べたことで有名な言葉です。

ちなみに「中庸」とは、偏ることを戒めてはいますが、単に

バランスが大事だということではないようです。その場、その

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

時に、最も適切妥当な判断をすることをいうのだそうです。ならば「中庸」とは、生易しいことではありません。どんな状況においても常に適切にふるまうのは、かなり難しいこと。だから、常に中庸を得ることができるのは、聖人だとも言われているのだそうです。

但し、中庸の「庸」とは、普通のこと、当たり前のことという意味もありますから、実は平凡なことこそ中庸はある。だから、どんな人でも中庸を得ることができるのだと、考えられてもいるようです。『中庸』宇野哲人訳注／講談社学術文庫）それは、勇ましく華やかなパフォーマンスよりも、地に足のついた確かな生き方の中にこそ、適切な判断は生まれることを示しているのかもしれない。

ところで、この言葉を踏まえて徳川家康

が「及ばざるは、過ぎたるより勝れり」（『東

照公御遺訓』）と言っていることをご存じでしょうか。やり過ぎを

戒め、謙虚であることを薦めるために、「足りない方が、行き過

ぎるよりも良い」というのです。

私たちが生きる現代社会は、大量生産、大量消費、そして過



徳川家康

剰なスピード化、効率化、利便性が求められています。人間や自然の営みを遥かに超えたその欲求は、様々な歪みも生み出しました。「このままでは地球がもたない」と、ようやく「持続可能な社会の実現」や「SDGs」といったことが叫ばれ始めましたが、過剰な欲求はなかなか収まりそうにもありません。そんな、「過ぎたる」時代において、地に足をつけ、謙虚に自分の生き方を見つめ直すためにも、今耳を傾けるべきは徳川家康の言葉なのではないかと思うのです。

「俺は満足しない」

以前、ある有名な日本企業の年間利益が、五兆円にのぼったことが話題になりました。五兆円と言ってもピンと来ない方もあるかもしれませんがね。数字に直すと5,000,000,000,000円。何と0が12個!とんでもない数字です。その大企業の会長は創業直後、二人しかいなかった社員に「いつか必ず売り上げも利益も一兆、二兆と、豆腐屋のように数えられるようにしてみせる」と宣言したそうですから、まさに夢が叶ったというところでしょう

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

うか。

ところが、その会長はこう言われたそうです。「私は五兆円や六兆円で満足する男ではない。十兆円でも全然満足はしない」と。私はその発言を聞いて、「この人は、一体いくら儲けたいのだからか」とゾツとしました。だって数字は、その後ろに0をつければ、永遠に増えていくのです。ですから、数字を増やすことの先に、満足があるとはとても思えません。数字に執着し、「もっと」「もっと」と欲望が過剰に煽られていく。気がつけば世界中がマネーゲームに振り回され、貧富の差が広がり、上位1%の富裕層が世界の個人資産の四割近くを保有するような状況になりました。



私なんかが見ても明らかに行き過ぎだと思うのですが、その渦中にあると、どんなに優秀な人であっても異常さに気づけないのですね。歴史をふり返れば、優秀な人が過剰さと異常さに気づけずに暴走し、悲劇を生んだという事例はいくらでもあります。まさにブレーキの壊れた自動車に乗って、さらにアクセ

ルを踏み続けているようなもの。これでは、「及ばざるは、過ぎたるより勝れり」どころではありません。「過ぎたるは、及ばざるよりなお悪し」と言わざるを得ないのが、現状のようです。

「善友」を求めよ

では、どうすれば冷静に自分をふり返り、地に足をつける生き方ができるのでしょうか。

以前、「高名で立派な教育学者でも、自分の子どもには冷静になれない」という話を聞いたことがあります。どんなに深い見識を持った人でも、自分の子どもになると、つい感情が先走ってしまうからだそうです。子育て真っ只中で、自分の子どもに冷静になれないことを苦悩している時期でしたから、「立派な先生でもそうなのか」と、ホッとしたことを覚えています。

第三者の立場なら冷静に見えることも、当事者になるとわからなくなるのが、私たち。ならば、それを前提に考えなくてはならないのでしょうか。つまりは、行き過ぎを指摘してくれる第三者の声を、常に聞かねばならないということです。

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

ただ近頃は、インターネットやSNSの普及によって、対立を煽り、過剰さと異常さを加速させる言葉が飛び交う時代です。「誰の声を聞くのか」という課題は、私たちの人生の歩みにとって、ますます重要なものになっていると言えるでしょう。

お釈迦さまは「善友」を求めなさいと説かれています。善友とは、自分にとって良い影響を与えてくれる人のこと。弟子のアーナンダが「善友と共にいることは、仏道の半分を成就したに等しいと思うのですが？」と尋ねると、お釈迦様は「それは違う。それが仏道のすべてである」と答えているほど、自分を導いてくれる友、第三者は、大きな存在だと言われるのです。

「そんな良き友人がいれば良いなあ」と誰もが思うのでしょうか。「そんな出会いは、なかなかないよ」と言われる方も多いのでは。ただ、そんな人がいたとしても、こちら側が気づけずすれ違う場合もありますよね。「忠言は耳に逆らう」「良薬口に苦し」ということわざもありますから、私が避けているのかもしれない。

『大無量寿経』という経典には、

「法を聞きがよく忘れず、見て敬ひ得て大きに慶ばば、すなはちわが善き親友なり」

とあります。教えを聞いてよく心にとどめ、仏を仰いで信じ喜ぶ者こそが、私のまことの善き友だと、お釈迦さまは言われているのです。

これは、「法を聞いて喜ぶことを条件に、私は親友になろう」と言われているわけではないでしょう。お釈迦さまや阿弥陀さまは、そして多くの仏さまは、常に私に寄り添ってくださいっている。そのことに気づき目覚めることを、「法を聞く」「見て敬う」「得て慶ぶ」というのだと、私は味わっています。

しかもそれは、たとえ自分に都合の悪いことであっても、大切なことであればうなずいていく姿勢でもあります。『阿弥陀経』に、「今現在説法（いま現にましまして法を説きたまふ）」とあるように、私のために、今大切な法が説かれていると受け止める態度です。

つまり、善友はすでに私のそばにあり、私は常に呼びかけられているのです。その呼び声に目覚める時、「過ぎたるは、及ばざるよりなお悪し」である自分の状況を冷静にふり返り、地に

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

足をつけた生き方が始まるのだと教えられます。

お念仏を称えながら、阿弥陀さまと相談しながら、人生を歩まれた先輩方の後ろ姿を思い起しています。今の時代に、最も必要な態度ではないかと考えながら。■



極楽寺

ホームページ

極楽寺.comで検索
又はQRコードから



極楽寺だよりを送りませんか

都会に出ておられる子どもさん、お孫さんたちへ。有縁の方々へ。お寺へお申し出ください。直接郵送します。





11月の言葉

自分がしたこと、人が喜んでくれる。これは人間にとって、大きな喜びの一つではないかと思えます。いやもしかすると、実は一番根源的な喜びなのかもしれません。

反対から考えてみると、よくわかります。相手を思ってしまったことで嫌がられたら、とても残念な気持ちになりますよね。気づいてもらえなかったら寂しい気持ちになりますし、無視されたらとても傷つきます。次第に、居心地も悪くなってきます。

でも、自分のしたこと、笑ってくれたなら、自分の存在が認められたような気がして、そこに私の居場所が生まれてきます。この実感は、生きる上でとても大切なことだと思います。

↓
仏教ではお釈迦さまの時代から、宗教的実践の基本として

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

特に強調されたものが「慈悲」でした。

「あたかも母が己の独り子をば身命を賭けて護るように、一切の生きとしいけるものに対しても、無量の慈悲のこころを起こすべし。全世界に対して無量の慈悲の心を起こすべし」

し』(『スッタニパータ』一四九・一五〇偈)

というお釈迦さまの言葉もあるように、あなたの笑う顔を見るために、慈しみの心とアクションを起こすのが、仏教の基本姿勢です。それは同時に、「あなたが笑うと私はしあわせになる」という喜びが、人間の根源的な喜びであるからだとも思うのです。

ただしこの喜びには、とても危険で、しかもやっかいな落とし穴が潜んでいます。

一つ目は、「自分が喜ぶために、相手を利用してしまおう」という落とし穴です。例えば、政府広報オンライン『被災地を応援したい方へ 災害ボランティア活動の始め方』には、

「被災者への心配り」を忘れず、自分の経験による判断を押し付けず、被災者の気持ちや立場に配慮し、被災者中心

↓



の支援を心がけましょう。」

という文章があり、しかもわざわざ下線を引いて強調されています。やはり、被災者の気持ちや立場よりも、自分の思いを押し付けるボランティアの有り方が、多々見られるということなのでしょう。自分の喜びや満足感を、つい優先してしまう。結果的に相手の自律性を奪い、依存性を高める状況を作ってしまう。あたかも、過保護な子育てのように。このケースは、福祉や介護の現場でも見られるようです。



二つ目は、助ける側が上で、助けられる側が下だという感覚に陥りやすいということ。実際には、助けている側が、助けられる側から精神的に支えられているケースなんて幾らでもあるのですが、安易にそう受け止めてしまう。すると、助ける側には優越感が、助けられる側には劣等感が生まれてくる。そこに、本当の笑顔はありません。

もう一つには、「相手を喜ばせることができない自分には、価値がないと思ってしまう」という落とし穴です。特に近頃は、「役

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

に立つ」「生産性がある」ことが、生きる資格のように語られています。相手を喜ばせることができない自分は、人の役に立たない自分は、生きる資格も価値もない。そう思わせるようなプレッシャーが、社会を覆っている時代です。

でも、「喜び」と「資格」（生きる資格というものが、本当にあるのかどうかを含めて）は、次元が違う問題のはず。同じところで語ってはなりません。何より、人間はそもそもすれ違うもの。上手いかないことが多いのが、大前提。だからこそ、安易に自分の思いを押し付けてはならないし、思いが通じ合った時の喜びも大きいのでしょう。

今あげた三つ以外にも、まだまだ落とし穴はありそうです。相手に喜んでもらうことは、本当に難しい。だから仏教は、真実の慈悲を実現するには、真実の智慧が必要だと説くのです。

しかし、落とし穴を警戒することで、何もできなくなる人も出てきます。「偽善者だ」とか「どうせパフォーマンスだろう」と、悪意に満ちた言葉を投げかけられ、心が折れる人もいます。では、真実の智慧が無い私たちは、どうすれば良いのでしょうか。

ならば、まずは反対から考えてみてはどうでしょう。「あなたが笑うと、私がいじめられる」のなら、逆に言えば、私の笑顔にも人をしあわせにする力があるということ。私が感謝することで、人を喜ばせることができるのです。

少年ジャンプで連載中の漫画『ワンピース』の主人公ルフィに、こんな名言があります。

「俺は〇〇ができねえ。△△もできねえ。」

俺は、助けてもらわねえと、生きていけねえ自信がある！」

これは、わがままな言葉ではありません。感謝の言葉です。「私には、できないことがある。あなたのお陰で私は生かされている。あなたがいてくれて、うれしい。ありがとう」。こんな言葉をかけられたら、どうですか。シビれますよ。私は必要とされている。私は求められている。私はここにいていいんだと思えます。



逆に「アンタがいなくても、オレは生きていける。アンタがいなくても関係ない」と言われたらどうですか。ガックリきます。存在を否定されたようにも、感じられます。

→

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

やはり、「有難う」という感謝の言葉は人を生かす言葉なのですね。ただ、その感謝の言葉が言えるようになるには、していただいていることに気づくアンテナやセンサーを育てなければなりません。向けられている慈しみや恵みを、当たり前のように受け止めていたら、そこに感謝は生まれませんから。

ちなみに、「拾」という漢字があります。この字は、「手へん」に「合わす」で構成されたもの。つまり、「手を合わす」と書いて「拾う」と読むのです。ここには、とても深い味わいがあるように思われます。

手を合わすという営みは、お願いしたり、求めたりするのではなく、「今すでに恵まれてあるものを、拾って歩む」ことなのだ。と味わえるのです。喜びはすでに与えられていて、たくさん転がっている。それを一つ一つ「拾って」確かめる。

つまり喜びとは、与えられることを待つものではなく、こちらが気づいていくものなのだ。そして手を合わせ、仏法を聞くことで、喜びに出会うセンサーやアンテナを育てられるのだと、教えられます。



「お念仏ねんぶつする者には、この世の最後まで仕事がある」と言われた方がありました。その仕事とは、お礼れいを言うことなのだそうです。なぜならお念仏を称となえ、阿弥陀さまのお心をいただくことは、私を支えてくださる世界と出遇であうということだから。「これほどまでに、私は大切に思われていたのか」と目覚め、頭が下がり、お礼を申さずにはおれなくなるから。

しかも、このお礼を言うことほど尊とつとい仕事はないのです。なぜならこの仕事は、周まわりに笑顔を、しあわせを生んでいくものからです。何より、どれだけしてもしすぎる事はなく、すればするほどまだまだ足らぬ事が知らされるほど、奥深おくぶかいものでもあるのです。

人生を通して、お念仏申し、喜びを拾っていきましよう。私は「あなたが笑うと、私がしあわせになる」と思ってくださいる方々に、困かこまれているのです。そして、こんなにも尊とつとい仕事をいただいていることに、また感謝させていただきたいものです。■



2032年完成予定 納骨堂新築計画 スタートしています

新規加入者 募集中です！

- ◆ 納骨堂は、お墓を建てるより、費用を抑えることができます。また、維持管理の面やお参りのし易さも、納骨堂の利点だと言えるでしょう。
- ◆ 合同墓、小区画など、様々な形を考えています。お気軽にご相談下さい。
- ◆ 建った後に「入りたい」と言われても、空きがなければ難しくなります。今のうちから、どうぞご検討、ご相談ください。

個人旅行ばかりの時代だからこそ、あえて今、団体旅行の良さを味わうのも面白い！

第37回三隅親鸞聖人聖蹟巡拝団

本山参拝・新潟・長野（親鸞聖人ゆかり地）の旅

二年に一度の^{せいせきじゆんぱいだん}聖蹟巡拝団のご案内です。

今年は本願寺^{ほんがんじ}に参拝後、上越新幹線^{にいがた}で新潟へ向かいます。新潟は、親鸞聖人^{るざい}流罪の地。聖人のご苦勞をしのび、ご旧蹟^{きゆうせき}を参拝します。

その後、長野^{ながの}を観光する予定です。

今回は、久しぶりに二泊三日の日程。どうぞお誘い合わせの上、ご参加下さい。



2025年3月25日（火）～27日（木）二泊三日

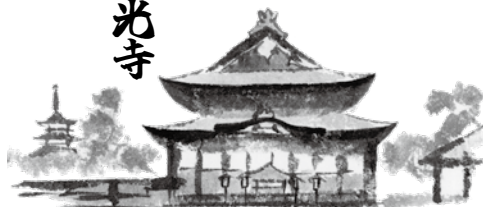
参加費 110,000円 募集人員 35名

〆切 1月31日（金）まで。定員になり次第〆切ります。

帰敬式を受けられる方は、別途 10,000円必要です。

※ 詳しくは、お寺まで。

善光寺



聖蹟巡拝団は「お互いさま」「ありがとう」の旅です。

迷惑をかけ合い、感謝し合う旅ですから、どなたでも遠慮なくご参加下さい。

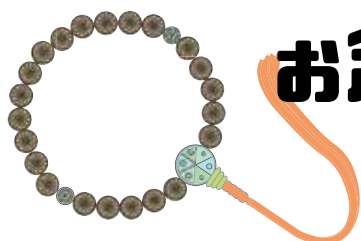


仏事、葬儀、納骨…、わからないことや
困ったことがあれば、極楽寺にご相談ください。
ご遠慮なく、どうぞ 0837 (43) 0625

古い仏具 使わないお線香

お寺へお持ちください

本堂に回収箱を設置してあります。



お念珠の修理いたします

お念珠のヒモは切れるもの。不吉なことではありません。

お寺で修理いたします。お持ちください。

物でお布施

mono de OFUSE

一家庭で眠っている物を、活かしませんか

書き損じはがき・未使用切手 CD・DVD・未使用テレホンカード
ゲームソフト・ゲーム機器・商品券・ビール券など金券



仏教の精神にもとづき活動するNPO法人『アーユス仏教国際
協力ネットワーク』に送り、海外の難民支援や国内災害の被災
者支援に使わせていただきます。



プルトップも、集めています！

本堂に設置してある回収箱に、お入れください。



□暑かった。本当に暑い夏でした。昨年も暑かったですが、お盆を過ぎると涼しくなったのを、はっきりと覚えています。ところが今年は、9月に入ってもエグい暑さが続きました。三隅親鸞聖人鑽仰会法会（9月14～15日）期間中も、エグい暑さでした。外の受付にはスポットクーラーを用意していましたが、駐車場係をしてくださった方々には、本当にご苦勞をおかけしました。大変だったことでしょう。申し訳なさと共に、感謝申し上げるばかりです。□さて、その酷暑が原因なのか、我がカープはシーズン終盤に歴史的な大失速

をしでかしました。9月を首位で迎えたチームが、Bクラスに沈むのは、プロ野球史上初だそうで…。あまりの凋落ぶりに、ただただ呆然とするしかありません。しかし振り返れば、今シーズンは薄氷を踏むような試合ばかり。ずっと冷や冷やしながら観ていましたから、「恐れていたことが、遂に来たか」という思いもしています。裏返せば、選手層の薄いチームが、ここまで力以上のものを振り絞り、奮闘してきたからだといえるでしょう。それを引き出した新井監督の手腕は、たとえこのような結果になったとしても讃えられるべきだと思います。実は、サッカーJ2で躍進していたレノファ山口も、ここへ来て大失速。予算規模の小ささと、それに伴う選手層の薄さを補う采配をふるってきた志垣良監督でしたが…。でも降格圏常連のチームが、終盤まで上位争いをしたわけですから、大健闘だと言えます。□但し本当の闘いは、これからです。何をやっても上手くない時は、私たちの人生にもあること。その経験をどう受け止め、どう活かしていくかが問われるのでしょう。その点に注目しながら、来季のカープとレノファの闘いぶりに注目していきたいと思います。特に、何度も挫折を経験し、そこから立ち上がってきた新井監督には、大いに期待しています。□しかし両チームの失速ぶりを目の当りにすると、今年一番体力が削られる暑さだったのは、実は広島・山口地域ではなかったか。そう考えてしまうのは、言い訳が過ぎるでしょうか。■

次回法座の予定

仏婦報恩講 12月18日（水）

除夜の鐘つき 12月31日（火） 元旦会 1月1日（水）

御正忌報恩講 1月14日（水）～16日（木）